

平成 17 年度科学技術関係予算の改革について（案）

平成 16 年 7 月 23 日

総合科学技術会議

平成 17 年度は第 2 期科学技術基本計画の最終年度であり、同計画に掲げた科学技術創造立国実現のための諸目標の達成に向け、以下のとおり、不必要な重複排除の徹底など科学技術予算の改革を進め、質の高い施策への取り組みを強化する。

1. 「科学技術連携施策群」の創設・推進

各府省の縦割りの施策に横串を通す観点から、総合科学技術会議は、国家的・社会的に重要であって関係府省の連携の下に推進すべきテーマを定め、関係府省とともに、テーマごとの関連施策等の不必要な重複を排除し連携を強化した上で、科学技術連携施策群（以下、「連携施策群」という。）として積極的に推進する。

連携施策群のテーマは、有識者議員が候補を示し、概算要求前に各府省からのヒアリングを行い、各府省と調整をした上で、9月の本会議において決定する。

科学技術政策担当大臣及び有識者議員は、科学技術関係施策の優先順位付けにおいて、連携施策群について不必要な重複の排除、連携の強化等に係る点検を行うとともに連携施策群ごとに重要度を付す。さらに、その後の予算編成過程においても、連携施策群の重複

の排除、連携の強化等に係る点検を行う。

総合科学技術会議は、予算編成の各段階で財政当局と緊密な連携を図る。

連携施策群ごとに、連携効果を高めるため、総合科学技術会議の下に連携推進ワーキンググループを設けるとともに、コーディネーターを配置し、一体的な推進を図る。

重複排除を徹底した上、連携施策群の中で欠落している課題の実施については、総合科学技術会議のイニシアティブの下、必要に応じ科学技術振興調整費を活用する。

2 . 競争的研究資金の改革の徹底及び重点的拡充

関係各府省は、平成17年度予算において、各府省予算全体におけるスクラップ・アンド・ビルド原則の下、独立行政法人等に係る運営費交付金のあり方、競争的研究資金以外の既存の科学技術関係予算のあり方等も含めて科学技術政策の観点から「聖域なき見直し」を行い、競争的研究資金の効果を最大限に発揮するための制度改革を推進しつつ、競争的研究資金について、第2期科学技術基本計画で定められた競争的研究資金倍増目標に向けて重点的拡充を図る。

有識者議員は、上記制度改革・資金拡充への取り組みの状況について概算要求前にヒアリングを行う。総合科学技術会議は、概算要求後の本会議において、関係各府省より自らの改革と重点的拡充への取組状況についての報告を求め、政府全体の取り組みを把握するとともに、予算案決定後の本会議において、再度、政府全体の取り組みを把握し、確認する。